

事業評価報告書

1 地域課題の名称

人口の流出抑制及び転入促進に対する有効な施策について

2 市町村名及び評価部局課名

小矢部市企画政策部企画政策課

3 課題の概要

転出超過が深刻である若い世代の「市への愛着・誇り」の醸成を図り、移住・定住に繋げたい。

4 解決策の提言に対する評価(観点及び分析等について、具体的に記載願います。)

令和2年度に引き続き、本市が抱える課題に対する解決策として、今年度は「小矢部型地域愛着形成プログラムの開発に向けた基礎研究」と題して、プログラムの開発及び施策提案をいただいた。

まず、「小矢部型地域愛着形成プログラム」の考案に当たり基礎的知見を得るために開催された、高校生を対象としたワークショップについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、昨年度は開催できなかったものであり、今年度は、当初の予定回数より少ない開催となったものの、工夫して開催された点が良かった。

また、ワークショップの結果、市シティプロモーション戦略プランにおいて、本市のイメージとして挙げている「メルヘン建築」及び「自然」、「祭り・人」といったものが、高校生にとっても魅力であると認識されていると分かった。さらに、高校生が認識している市の課題への解決には、「商店街で高校生と地域の人と交流するためのスペースを設けることが効果的である」可能性については、これまでも様々な自治体で同様の取組みが行われていることから、支持できる指摘であると感じた。

また、高校生にとっては、まちの魅力や課題、将来像を考えるワークショップに参加することが、市政について考える初めての機会となり、地域の魅力や課題への認識を深め、地域への意識や関心を高める効果が期待できるという指摘についても、まちづくりに携わるものとして、念頭に置くべき考え方であると感じた。

次に、今年度は、市民のまちづくりへの考え方及び意見を調査し、市民のニーズに対応した市政運営を目指して実施する、市民満足度調査の調査年であったため、「小矢部型地域愛着形成プログラム」開発のためのアンケートを同時に実施した。回答結果から、各種政策の市民満足度がシビックプライドに与える影響について初めて分析された点は自己評価どおり大変評価できると感じた。

最後に、調査研究に基づく提言として、高校生が主体となって、中心市街地を対象に場づくりの企画及び実践を行う教育プログラムの開発を提言していただいたが、教育プログラムの内容をさらに掘り下げ、また情報発信(SNS)ツールの活用を含めた提言となればさらに良かった。

総合的に判断して、令和元年度からの2年間で、十分な先行研究に基づき、今後のまちづくりの参考となる有効な提言をいただいたという点で、大変有意義な研究結果となったと評価できる。